

JIA NAGANO-KEN CLUB

Vol.88
2011
01.31

JIA長野県クラブ

(社)日本建築家協会 関東甲信越支部 長野地域会

<http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/>
jia-naga@jeans.ocn.ne.jp



まち並みウォッチング 軽井沢



上田情報ビジネス専門学校雑学講座



幹事会

2011年の年頭に思うこと

久保隆夫さんがご逝去されました。改めて申し上げるまでもなく長年にわたり当会の為にご尽力され、大きな支えとなってくれました。個人的にもご指導を受け常に進むべき方向を示唆していただきしていました。余りにも早すぎる死は誠に残念であり、無念さを禁じ得ません。心よりお悔やみ申し上げます。

昨年の暮れから正月にかけて、暇に任せて様々乱読していた中に建築にまつわる気になる文章がありました。1つは、西山彌三の「食寝分離」と吉武泰水や鈴木成文の「2DK公団住宅」が戦前からの家制度を壊し家族の絆を崩壊させる大きな契機となったというものです。ここ20年位の家族の崩壊を思わせる様々な悲惨な事件や、傍若無人な自分さえ良ければいいというような風潮には常々心を痛めていましたが、自分が関わる『建築』にその大きな原因があるという指摘には多いに驚かされました。筆者は玄関、広縁、床ノ間無き住宅が地域との繋がりを切り、神棚、仏壇のない2DKが核家族化を招き、祖父母から子供や孫へ、生活習慣や年中行事などの家風を継承できないようにして、個人優先の人生観や生活スタイルを生み出したと述べています。

もう1つはヴォーリズの設計した校舎が多く残る関西の大学教授の文章で、ヴォーリズの建築を評価する際重要なのは専門家が語る審美的な価値ではなく、合理的な機能ではなく、心地良さそうなテクスチャーというのでもないと述べています。彼の建築は効率的な観点から見れば無駄はあるし、機能も特別優れてはいないけれども「世界は深い」と感じさせる何かがある。また阪

山口康憲
神大震災でも全く損傷を受けず、調査すると現行の基準法の構造規定を遥かに超えた設計がされていたことを指し、彼の設計は自身の荣誉や顕彰を求めてのものではなく、自分の死後いつか分からぬ将来の「命を守る建築」を建てることを優先した。ヴォーリズの学校は「人を作る校舎」であり「100年後にも生き残る贈り物」であると述べています。

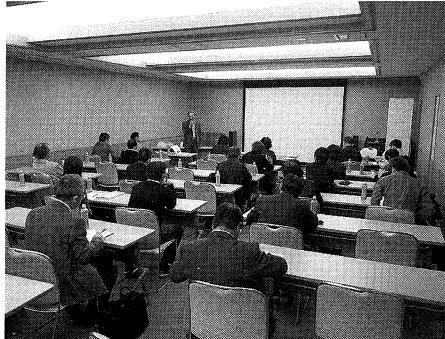
建築家の職能あるいは責務を語る時に「市民の期待に応える」と良く言われますが、そんな時私はいつも違和感と居心地の悪さを感じていましたが、これらの文章に接してその正体が隠れながら見えたように思います。クライアントの要求に応えるだけでなく、例え小さな住宅であっても地域社会と、そこに暮らす家族の人間形成にも大きな影響を与えることを肝に銘じて設計しているかと問われた気がしました。

2011年は言うまでもなくUIA東京大会の年です。我々が本来持つべき職能を実現させうる生産システムも含んだ広範囲な制度改革はUIA大会の成功にかかっていると言っても過言ではないでしょう。馬淵前国交大臣は大会までに建築基本法の道筋を付けたいと明言していましたし、先日UStreamで配信された連続シンポジウムにおいて芦原会長が示した制度設計案は非常に説得力のある実現可能なもので、JIAが社会に対して堂々と提示できる立派な案であると確信しました。我々JIA会員は全員がUIA東京大会に参加し、常に高い倫理観と職能意識を掲げて地域社会に貢献することが、亡き久保さんの意志を引き継ぐことにも繋がると思いました。

冬のセミナー

12月4日に安曇野蝶ヶ岳温泉 四季の郷『ほりでーゆ~』にて“冬のセミナー”が開かれました。午前中幹事会が、午後「信州の建築家とつくる家Vol.7」の発刊に合わせて、参加者それぞれが5分間自らのページを発表しました。各自の作品を多くの正会員・賛助会

員に見ていただき、意見交換を行いました。その後、賛助会の皆さんにブースレビューとして、会場内に資料展示やプレゼンテーションの時間を設け、自由にPRして頂きました。



冬のセミナー 出版レビューに参加して

平井 敦典

「冬のセミナー」が12月4日に行われ、遠路(?)遙々飯山から安曇野までの道程ではありましたがあ、参加しました。

今回このセミナーの内容で最も楽しみにしていたのは、「信州の建築家とつくる家・第7集」の発刊に合わせた出版レビューが予定されている事でした。スクリーンを使い、作品に対するコンセプトなどを直接伺うことが出来たのは大変新鮮な感じを受けました。掲載されていること以外にも、仕事への取り組み姿勢、そして建築に対する熱い思いを直接言葉として伺える機会はあまり多くないので、今後の自分自身の仕事の参考とし、またそれを反映していくべきと考えています。

それぞれ限られた時間の中でのお話ということもあり、若干消化不良気味などこ

ろもあったのかな? とは思いますが、質疑の時間なども用意して戴いたことにより活発な意見交換も出来たのではないかと思います。他の方々の目線を通しての意見を伺えることは、単に発刊された物を「読む」「見る」ということ以上に貴重な体験でした。

今回はセミナー終了後に開催された忘年会には時間の都合が取れず参加出来ませんでしたが、後々聞いたお話を聞き、お酒が入り活発な意見交換がなされたとのこと…。そうした、ざくばらんな意見を伺えなかったことは大変残念ではあります。が、今後こうしたセミナーにはより積極的に参加し有意義なものをしていくたいと思います。

「賛助会ブースレビュー」に参加して

賛助会 岸本 貴志

冬の恒例行事は名称も一新「冬のセミナー」とされ、この交流及び勉強のための大変良い機会において賛助会にもプレゼンテーションの時間が与えられたことに感謝致します。

初めての試みである「賛助会ブースレビュー」は、カタログ出展者が次々とプレゼンテーションを行う形式により、とてもリズミカルかつ活気ある時間となり(汗をかきつつ)とても良かったと思います。振り返れば与えられた1時間になんと11社。自然石か

ら木材、塗材、仕上材、断熱材、木製建具、鋼製建具、遮光ルーバー、太陽熱利用、ヒートポンプ、浄化施設まで。これは次回ネタあるんでしょうか?

しかしカタログ出展+一言アピールの様なこのやり方は事前の準備や片付けの負担も少なく、宴会を控えた今回の集まりの時には良い方法だと率直に思いました。

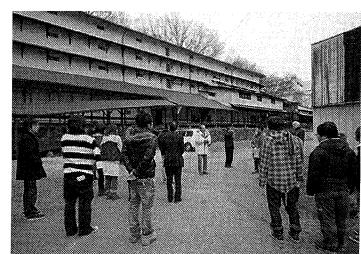
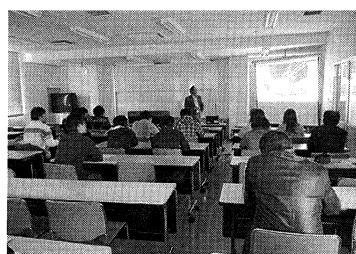
上田情報ビジネス専門学校 雑学講座

下崎 明久

12月21日、上田情報ビジネス専門学校的雑学講座に参加してきました。講師はしみず建築工房の清水国寿さん。「街に出よう、旅に出よう」というテーマのもとで講座を開催していただきました。まずは教室にて、日本設計勤務時代の1988年に長期休暇をとって実現された、ヨーロッパ建築旅行のスライドを紹介していただきました。フィンランド・スウェーデンといった北欧を中心に、ドイツ・オーストリア・イタリア・フランス・オランダを巡ったものでした。印象深かったのは、清水さんの興味の矛先が近現代建築よりもゴシックやバロックといった古典建築や、街で見かける名もない(でも時間に耐えて良い味を出している!)建築物であったりして、とにかく清水さんらしさを伺えるものでした。冒頭「旅をしていますか?」の問いかけに、学生さんの反応は「…?」といった感じでしたが、この時間を通して「旅に出たい!」という想いに皆さんが駆ら

れたことでしょう。若いうちにする旅、特に一人旅は、自分を見つめ直したり、その後の人生の糧となるはずです。積極的に旅に出ましょう!

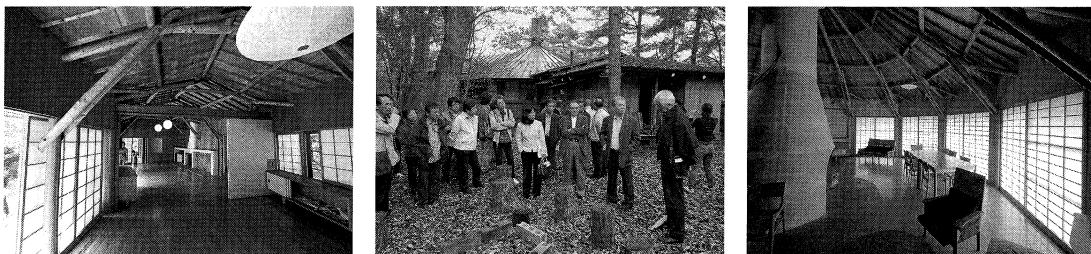
次に場所を移して青木村の現場を見学させていただきました。清水さんが推進している「板倉の家」です。工法的にもとても興味深いものがあり、地域材を多用することやシンプルな空間づくりに大変共感できるものでした。板倉造についての詳細を改めてお聞きしたいものです。続いて上田駅近くに建つ「まゆ蔵」を訪れました。明治45年建築だそうですが、こちらも板倉造であるとのことです。新鮮な驚きでした。移動時には同車した学生数名と色々な話をすることができ、今後の社会を担っていく「今どきの若い人たち」の動向を知る良い機会となりました。最後に就職難といわれるなか、学生の皆さんにエールを送りたいと思います。



軽井沢に現存する1960年代のふたつの建築物をじっくり拝見させていただきました。ひとつは「もみの木の家(旧足立邸)」そして「軽井沢の新スタジオ」

設計は共に建築家アントニン・レーモンドが手掛けた建物です。

レーモンドといえばオーギュスト・ペレに続きコンクリート打放しを前衛的に試みた建築家であり、高崎市の「群馬音楽センター」はそのコンクリートの素材感を引き出したとても美しい文化ホールです。見学した建物はこのコンクリートと相反する素材:木を全面的に使った軽井沢らしい建物で、内部は木の持つ優しさが時の経過と共に美しく仕上がっている印象でした。まるで桂離宮や合掌造りに代表される日本の伝統工法を思わせる建物でした。



時のブルノタウトが桂離宮を絶賛したように、レーモンドもまたその感動を軽井沢で表現しているかのようにも見えました。

「軽井沢の新スタジオ」では、北澤興一氏の貴重な話も伺えました。このスタジオは自身が所有し、且つフレーモンド事務所に在籍していた経緯もあり、在籍中の夏このスタジオで切磋琢磨した話を興味深く聞かせていただきました。私事ですが、軽井沢は東京での修行時代に良く来た地でもあります。夏に所員が軽井沢に集まり、事務所の主宰者である武藏野美術大学教授の山荘に宿泊し、工事中の物件や別荘群の見学会そして勉強会など。そんな軽井沢での思い出が北澤氏の話で蘇った懐かしくもあり有意義なウォッチングでした。

—少しだけ…— 「久保隆夫君を送る」

春一番が吹く前に、彼岸に向かって一瞬風が流れました。それも陽が昇る前に足早に訪れたのです。スース姿のきみは長方形の箱の中で眠っていました。その前にはボタンとパーラメントの箱がひとつ。（もう気にすることなく喫つてくれ）花に埋もれた写真は気持ちよく微笑んでいて、見たことがないほどいい表情でした。（予感していたんだろうか、いつ撮つたんだろう？）その顔をよく見ると、きみの生きざまが見えてきました。きみは決して大笑いはしなかった、いつも少しだけ苦笑いをしていました。わかっていて、全てを抱え込みながらも現実的にゾーンとしての限界が見えていて、それしか、いやそれゆえに少しだけの方法論を実践していたのだと思います。それは天性であり、何に対しても少しだけの表出がきみの人生でした。その重圧を人には少しも意識させません。（組織の中での孤独感は誰もが感じるものですが…）私には内に秘めたダンディズムが少しだけ垣間見えましたが、見方によつては強さととられ、人はそれに頼り、それを利用し、それを誤解しました。ときには仇状態を生むことにもなつたのです。きみの唄のように（滲む街の灯を、ふたり見ていた／泣いたらあかん、泣いたら）適当に間延びする術を覚えたらと思つていました。でも、きみの底にある誠実さはそれを許しません（きみにはいつも寂寥感がありました、まだそれが魅力になつていたのです）。すべてについてできる限りの解答を求めるよとしました。だからきみはいつも駆けていたのです（きみは語らなかつたのです）。私はわかつっていました、ほんとうはすごく繊細なことを。の本質が肉体を疲れさせたのです。きみの本質は心にあって腹には何もなかつた。しかし病魔はその空いてい

るスペースに居座つてしまつたのです。

ふたりの話の中では、きみはよく若い人達のことを気にしていました（好きだったのです）。同時代を生きた我々が求めた、何故、もつと、違うアプローチ、といった常に疑問を持つ言語が少なくなつたことです。つきつめると倫理という目に見ええないものに言及せざるを得ないのでですが、倫理とは人間としての核のようなものである（吉本隆明の言葉から）。この核のようなものの上昇がないと、批評精神は生まれないので。仕事は日常、ある程度習慣的な技術によって可能な行為ですが、この問い合わせから出発しない仕事は、空しいものになるだろう事を自覚して欲しいのです。人が生んだものを借りてくるのは楽な事ですが（それはよく倫理感に欠けるという言い方をしますが、私達はこのにおいて敏感でした）自分の体質から核の倫理を上昇させないと生まれてこないのです。少しだけ虚無的なきみが大きな声で言いたかったのです（でも少しだけのきみはあえて語らなかつた：待つっていたのです）。

あの日、きみのカミさんの白いうなじがぼやけていた時、どうしようもない空洞がやつてきました（淋しさや虚しさというより、話し相手がいなくなつたという現実）。いつもきみは軽口をたたきながら少しだけ先に歩いていたが、私はこれからもきみがよくのたまつていた短い脚で一生懸命歩いて行かねばなりません。（長い一日はだんだん苛酷になりそうです）

今は少しだけ落ち着いて静かですが…。まだ信じる事ができないでいます。いつもと変わらない時間は過ぎていきますが…。

賛助会だより

美しい景観と優しい都市へ。

弊社は、主に金属工事を主体に化粧外装材ならびに金属製建具工事などを手掛けさせて頂いております。

近年環境エコに配慮すべく外装ルーバーのお問合せが増えております。我々刷新と致しましては、アルミ製既製ルーバーは基より、特殊新型ルーバー・再生木ルーバー・窯業材のテラコッタルーバーなど、幅広くご提案させていただいております。建物の表情がひとつひとつが、当然の事ながら違うため、施主様、設計事務所様から色々な考

株式会社 刷新 石澤 隆志

え方をお聞きし、忠実に技術屋のプロフェッショナルとしての自信?を持つてご提案させていただいております。ルーバー製品に限らず、金属製アルミ・スチール・ステンレス製品をご検討する時は、是非当社にお問合せくださいと幸いです。JIA長野県クラブの皆様と共に更なる技術向上に努めて参りますので、これからもご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

〒380- 8007 長野県長野市布施高田283-2 TEL 026-290-5551

お得意先・地域社会・社員の協業のもと、新しい価値を創造し、お客様への喜びと満足の提供を通じて、豊かな暮らしの実現に貢献します。

当社の事業内容はビル用建材、住宅用建材、エクステリア建材の開発・製造・販売。アルミニウムおよびその他金属の圧延加工品の製造・販売です。

【住宅建材】建材は見た目だけではなく、機能や使い勝手が重要です。三協立山アルミは人の「暮らし方」を大切に考え、機能や使い勝手を考慮した「省エネルギー」「バリアフリー」「高耐久」の建材で応えています。

株式会社 三協立山アルミ 長野支店 宮原 和弘

【エクステリア建材】「快適な生活空間」とはインテリアのことだけではありません。エクステリアもやはり快適な生活空間です。三協立山アルミのエクステリア建材は、最新のデザインと品質で、住む人の個性と美しい街並を表現します。

【ビル建材】ビルの外部から内部まで、あるいは意匠から機能まで、地域や環境によって異なるニーズへ、常に最新の技術で応え、高い評価を受けています。

〒380-0803 長野県長野市三輪1-1-26 TEL 026-244-1101 FAX 026-244-9723

安らげる住まいを創る。安全と安心をご提供します。

建築塗装工事業を軸に、昭和60年頃より外断熱工事・アスベスト処理工事について手懸けてまいりました。社会の求める仕事を通し

株式会社 サン・スプレー 環境事業部 下平 康之

て今日に至っております。今後も環境に配慮した工法、材料のご提案をしてまいります。

〒381-2205 長野県長野市青木島町大塚1139-1 TEL 026-283-3588 FAX 026-283-3508

健やかな暮らしを、お届けしますをモットーに断熱設備をトータルサポート 信越ビー・アイ・ビー株式会社 代表取締役 小林 義孝

住宅とは本来心底からくつろげる空間で無くてはなりません。一日の疲れを癒し、明日の英気を養い活力を生み出すことが大切ではないでしょうか。冬、家の中で寒さを我慢し続ければ健康にも大変な悪影響を及ぼしかねません。そうかといって、暖房器をガンガン稼動させれば電気代や油代が気にかかるたり、部屋間の温度差が不快であり、ヒートショックの危険性も増してしまいます。

様々な要因で冬は家中では寒さを我慢してきたのです。最大の理由は家中を暖められる断熱性能では無いという事ではないでしょうか。当社は断熱気密施工の専門会社として建設会社に代わり責任施工で性能を数値で示し、各種の測定を行い品質が確認出来ます。開口部も断熱的に考えると最も重要な部位であり、建築意匠にも大きく関わります。窓は木製三層ガラス、玄関は木製ドア何れ

もスウェーデンからの輸入商品になります。換気の概念は新鮮な外気で室内の汚染空気を希釈して安全で健康的な空気質にすることです。冷暖房も健康増進には最も大切な住宅設備の一つですが、残念ながら我国では贅沢品とする考え方方が強いようです。これら、断熱気密、換気、冷暖房除湿をバランス良くデザインすることで、ロスなく、コストパフォーマンスにも優れたトータルシステムを提案しております。近年地球環境にも关心が高くなっています中当社では、太陽集熱で温水暖房と同時に給湯設備まで賄うシステムにも力を入れており、太陽光発電まで組んだプラスエナジーハウスも国内で初めて竣工させることが出来ました。様々な省エネルギー政策に対応する事で社会に貢献して参りたいと思いますので、どうぞ今後とも宜しくお願い致します。

〒381-0012 長野市柳原 2550-15 TEL 026-295-6155 FAX 026-295-6122

窓と壁から環境を考える

みなさま、新年明けまして…とご挨拶すべき所なのですが、今年は大変悲しい知らせから始まりました。まさかあの久保さんが…とても悲しく、信じがたい出来事でした。JIA長野県クラブにとっても、また地域の建築界にとっても、計り知れない貢献をされて来られた事だと思いますが、私個人にとっても、かけがえの無い大切な人でした。今はただ、心からご冥福をお祈り申し上げますという事しかでき

株式会社 新和建材 水谷 健治

ません。残念です。

そんな中、会社の紹介も無いと思いますが、簡単に紹介させて頂きます。当社はYKKAPさんのビル用、住宅用アルミサッシ・エクステリア、その他アルミ建材をメインに、無機質スーパーガードセラミックスという、汚れにくく、光触媒で汚れを分解し、雨でそれを流すという外壁の塗装をやっています。どうぞよろしくお願い致します。

〒381-2205 長野市青木島町大塚848-4 TEL 026-286-0001 FAX 026-286-0002

今後の行事予定

- 2月21日(月) UIAシンポジウム
2月22日(火) 会員の集い
3月12日(土)・13日(日) 建築祭

計 報

当地域会で3期6年に亘り副会長を歴任され、会の発展に尽くされた久保隆夫会員(宮本忠長建築設計事務所)が1月4日にご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げますと共にお知らせいたします。

編集後記 久保隆夫さんがご逝去されました。長年にわたり長野県クラブのためにご尽力され、大きな支えとなってございました。私がこの長野県クラブに入会して、久保さんに出会い個人的にも様々な面で相談にのっていただき、進むべき方向を示唆していただきました。いままだこのことを信じることができません。振り向くと久保さんが声をかけてくれるような気がします。まだまだ話したりないことがたくさんありました。余りにも早すぎる死は誠に残念であり、無念さを禁じ得ません。心よりお悔やみ申し上げます。 勝山 敏雄

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。